

◇学校運営の反省と次年度に向けた方向性について 新館啓一校長

- 学校目標の具現化を目指し、「自律・共生・貢献」をキーワードに教職員、生徒、保護者、地域が連携・協働して魅力ある学校づくりを推進することができた。
- 学習活動や三大行事（駅伝大会・運動会・合唱祭）等への取り組みを通して、生徒の自律・共生・貢献する姿を見ることができた。また、行事の振り返りを通して、生徒自身が自分の成長と仲間の大切さを感じることができた。
- 防災士による防災研修会や家庭科授業でのサポート、町役場職員による進路講話、1年生での地域学習、2年生での職場体験、3年生での保育実習等、外部講師や地域の人材、資源を活用した教育活動が展開できた。次年度も地域の資源を活用し、さらなる「魅力ある学校づくり」を推進していきたい。
- 学校だよりやホームページ、安全安心メールを活用しての情報発信・提供を行うことができた。
- 三川中10のコンピテンシーについては、始業式や終業式等の場面で、生徒に話しながら意識づけすることができた。次年度は、10のコンピテンシーを教育課程の中で明確にしながら資質・能力の育成に取り組んでいきたい。
- 学びのユニバーサルデザインを意識した授業や構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを活用した活動を展開することができた。
- 生徒の声アンケートをもとに、「魅力ある学校づくり」の取り組みを行うことができた。生徒の声アンケート（12月実施）では、「学校が楽しい」98.2%、「みんなで何かすることは楽しい」99.4%また、生徒の自尊感情、自己有用感を高めることができた。「自分にはよいところがある」92.3%、「友だちはあなたのよいところを認めてくれる」96.4%で、前期の調査から上昇がみられる。今後も、様々な悩みや不安をかかえる生徒、周囲の生徒とうまく人間関係が築けず不登校や不適應をおこす生徒については、スクールカウンセラーや学校支援との面接やMitte（ミッテ）等を活用し、組織的な対応を継続していきたい。
- 重点施策の「生徒にとって学びのある授業を創る」ことでは、学習指導と生徒指導の一体化を意識し、質の高い授業づくりに取り組むことができた。その結果、生徒の声アンケートでは、「授業に主体的に取り組んでいる」97.6%「授業がよくわかる」91.1%と前期より上昇が見られた。次年度は、総合的な学習の年間計画を再構築し、各学年で探究的な学びを意識して取り組んでいきたい。
- 「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動を推進するについては、学校行事等を通して、主体性の向上、協力・連携する大切さ、他人を思いやる心の成長が見られた。生徒会でも学年をオープンにしたコミュニケーション活動が行われてきている。次年度は、重点を『「自律・共生・貢献」の心を育む教育活動』に変更し、生徒会活動を重視して主体的な活動を全職員で支援していきたい。
- 高い同僚性をもとに、学び合い、研鑽し合う教職員集団をめざすことについては、校内授業研や校内研修を通して、授業改善や教員の資質向上を図ることができた。また、生徒の思いに寄り添い、生徒が成長することを全職員で支援することを心がけ、生徒との信頼関係も向上している。さらに、校内授業研修会では、教科の枠にとらわれずに育成したいコンピテンシーで授業を研究することもできた。次年度も全職員で組織的な研修に取り組んでいきたい。



◇学校運営の反省と次年度に向けた方向性への質問や意見について 委員の方より

- ・生徒のアンケート結果も満足度が高く素晴らしい。今年度、3年生が取り組んだ防災研修会は生徒の主体性から行われたものか。
- テーマとして防災に目をあてたのは学年アンケートからで、昨年大雨による体験を元に地域防災を半年にわたって学んできた。県の防災学習館が目の前にあり取り組みやすかった。

- ・3年生の防災研修のまとめなどを下級生に発表する機会などはなかったのか。つながりができるとよかった。
- 3年生はまとめの時間を多くとれなかった。学校としては、中学生と町議員との懇談会において、自分たちの町の学びを発表できればと考えているが、現在、懇談会が8月下旬に実施されており、難しい状況である。
- ・「自律・共生・貢献」というテーマを掲げて、みんなで話し合いを行いながら進めていることに大変好感が持てた。
- ・グループエンカウンター（菜の花タイムと学校では呼んでいる）で他を理解しながら話し合い活動を進めている今どきの中学生に驚きを感じた。難しい年ごろなのに自分をさらけ出すことをよくやっている。
- ・教職員は年々かわっているはずなのに、生徒の意識が高まっていることは、指導にあたる先生方の共通理解とチーム力に感謝したい。
- ・自分の子どもを見ていると、家庭の姿と学校での姿には大きな違いを感じる。それだけに学校での活動により自律心を育てていただいていると感じている。地域との関わりは今後も大切にしてほしい。それが、三川町を想う気持ちにつながっていくことだと思う。
- ・コロナ禍で育った子どもたちなので何かしら物足りなさを感じていたが、中学校でよく育てていただいていると感じた。特に、1年生に対して、先生方が学習に対して熱心に教えてくれていることは大変ありがたい。
- ・生徒会が主体的に進めてくれているコミュニケーション活動はよい取り組みで、今後も継続してほしいと感じた。
- ・部活動懇談会に参加して思ったことだが、部活動への加入者が年々少なくなっていることが残念である。地域との関わりの方から、文化関係や競技種目（大会で上位をめざす）だけでない活動がほしい。
- ・テスト結果の分布表を見て、授業が分かる生徒が多い割に下位の生徒が多いのではと心配になった。
- 分布表の刻み方が上位は10点、下位は50点刻みになっている。生徒への配慮からそうしてきた。一見すると下位が多いように見える。

◇その他、学校課題や熟議テーマに関わって 委員の方より

- ・少子化が進む中では、複式か統合かになるのはしかたがない。中学校は3小学校の卒業生が入るので当面は継続できる。
- ・少子化に向かう中で、子どもたちの多様性に応えるのは大変なことである。
- ・部活動ではなく、期間限定的な学習支援活動を地域の人材を活用して行うことはできないのだろうか。
- ・保護者や地域の方を中心にして、学校のサポートや支援のための人材バンク的なものが作れたら、総合的な学習や校外学習を計画するのに役立つ。
- ・三川町の今昔的なことを調べることや今の子どもが使わなくなった方言などを調べることも楽しいように思う。
- ・「いじめ」などの状況について、定義が変わり状況も変化してきている。
- ・SNSの自己管理能力はどのようになっているのか。あまりに便利になってきて何が大切なのかが大事になってきている。



◇学校運営の反省と次年度に向けた構想 齋藤優子校長

- 今年度も児童に身につけたい資質・能力を重視した多様な取り組みをしてきた。「カリキュラム・マネジメントによる資質・能力の育成」においては、核となる総合的な学習・生活科と関連教科においての探究的な学びを推進した。修学旅行、自然教室、町探検、横山の歴史、農業、福祉等で実践し、各学期でPDCA サイクルでの振り返りを大事に行ってきた。また、意欲が高まる魅力ある単元・授業づくりでは、教材研究に力を入れ、外部講師の活用を図りながら取り組んできた。
- 「地域や保護者とともにつくる学校」においては、稲作体験、町探検、同窓会による環境整備、相撲大会等において地域の方々から協力を頂いた。保護者からは、年間 10 回の親子読書、生活リズムづくりや危険箇所点検に協力を頂き、PTA研修会では、酒田光陵高校の情報科の先生を招き、「親子で学ぼう！メディアの活用」と題し研修することができた。「地域よこやまサミット」や「よこやまサミット」での語らいの場を通して学校を支えて頂いた。
- 児童に身につけさせたい「振り返る力」「対話する力」「見通す力」については、学校研究と学習指導部の両輪で主体的な学び合いのある授業づくりに取り組んできたことが、子どもに力をつけることに結びついてきた。教科の見方・考え方を大切にした授業づくりについては、これからも研修していく。「魅力ある学校づくり」への取り組みも子どもの意識の高まりにつながってきている。
- 子ども達と一緒に考えてきたこととして、前回の協議会でも話した休み時間の遊び方で怪我が多いということ、言葉づかいで嫌な思いをしている子がいること、あいさつ・会釈をしっかりする必要がある。怪我については年度当初よりは減ってきている。保健室を通して、子ども達と先生方との関係づくりを大切に考えながら見守ってきた。会釈は増えた。「横山しぐさ」の点からも継続したい。雑巾の干し方がよくなった。些細なことではあるが大切にしたい。今後も、遊びのルールを守ることや相手の気持ちを考えた「言葉」で話すことを指導していきたい。
- 地域防災・学校防災の連携について、今年度は、クマ出没時の対応ということで、県や町教委からの通達を共通理解し家庭の協力を頂いた。県から研修会の知らせがあったので、1月に全校でクマ対応の研修を行った。
- 児童会・委員会活動の主体的な取り組みとして、ミニ運動会、学校をきれいにしよう、給食マナーについて等、新しいアイデアあふれる活動を行ってくれた。次年度、児童数の減少にともない、ボランティア委員会と給食委員会を一緒にした委員会活動の見直しを進めている。
- 働き方改革にかかわって、家庭の理解を得ながら、学級だよりの隔週発行、勤務時間の15分前倒しに取り組み、勤務時間の意識改善を行ってきた。子どもの生活実態に合わせた勤務時間の変更により、インフルエンザが流行り始めた時等、児童の登校状況を速やかに掌握できた。
- 「魅力ある学校づくり」アンケートについても、前回の協議会で7月の結果で、6項目のCやDと評価された部分を上げたいと話した。12月のアンケートでは、その中の5項目で、AやBの評価に上げることができた。全ての教職員で子ども一人一人を支えてきた成果でないかと考えている。
- 保護者アンケートでは、「楽しく学校に通っている」(92%)「友だちと仲良く遊んでいる」(96%)「保護者の悩みに適切に対応している」(90%)と高い評価を頂いた。一方で課題に上げられたのが「食事・生活リズム進んで整えようとしていない」(38%)「家庭学習・読書を進んでしようとしていない」(37%)であった。生活リズムは町の養護教諭部会で作成した生活リズムカードを活用していくので、家庭と連携し取り組んでいく。読書は好きだが、家庭ではあまり読んでいないという課題がある。



- いじめに関するアンケートでは、昨年度より減少してはいるが、心の安心・安定が学習にも結びつくものなので、件数が減ったからと安心はしていないし、根気よく解消に向けた指導を繰り返している。子どもの心の動きに寄り添った指導・支援を継続している。
- 次年度の構想として、山形県教育目標・三川町教育目標を受け、学校教育目標と児童に身につけたい資質・能力は継続する。「経営理念」から「めざす学校像」へ変え、みんなで「気づき考え実行する」とした。学校全体で取り組む重点事項の中で、「魅力ある学校づくりの推進」を明記し、学習指導では「学ぶ楽しさ、わかる、できるを味わえるような授業づくり」を大切にしたいと考えている。
- 日課表の見直しでは、通年5時間授業にして(クラブ・委員会のみ6校時)全校下校が増える。生活の凹凸をなだらかなものにして児童の負担をへらす。毎日の朝読書で静かに始業準備に入る。清掃後に毎日短時間学習(15分)をとり、実習等がある場合60分授業も可能になる。授業日数は年間で1日増える。(204日)週2回のロング昼休みは、子ども達も楽しみにしているので変えていない。
- 次年度は、全校で144名(-12)9学級(-1)新1年生は、19名を予定している。行事面では、5年生の自然教室を10月末に移動している。5年生が田植え等もあり行事が続くこと、暑さ対策等への心配を減らせることで次年度試したい。「あのねシート」「いじめ発見アンケート」を3回から5回へ増やせたらと考えている。(4月・6月・8月・11月・1月)
- 持久走記録会を発展的見直しでやめる。理由は、児童数の減少や男女比のアンバランス、暑さ対策からの健康・安全面でのリスク回避、ただし、持久力アップの取り組みは「楽しい」体育授業の推進等で継続する。
- 令和8年度より、三川町4校ともネットバンキングによる新たな集金システムになる。

◇学校運営の反省と次年度に向けた構想への質問・意見 委員より

- ・体育の時間に外部講師等がやってきて指導してくれていることで、子どもも楽しみにしている。
- ・伝統を大事に考えながらも、児童数の減少や男女比に配慮して、委員会活動や行事を変更していくことは大切なことだと考える。
- ・子どもたちのアンケート結果で、自己肯定感や自己有用感の項目が上向していることがよかったと思えた。さらに関連し、主体性や創造性が育ってくれるといいなと思った。PTAとして生活リズムや家庭学習に何か協力できたらと感じている。
- ・雑巾の干し方については大切なことだと感じる。また、会釈をすることは来校した時に感じ、雰囲気が変わったと思った。言葉づかいについては、成長するに従いドキッとすることがある。家庭でも注意していきたい。
- ・アンケートのCやDの子どもに寄り添って改善していただいていることに感謝したい。生活リズムや食事に関わることへの意識が低かったことは残念である。新聞を読むことが少なくなったことは、家庭で新聞を取らなくなった、大人の新聞離れも影響しているかもしれない。

◇その他学校課題や熟議テーマについて

- ・少子化が進む中で地域との関りはより重視したい。特に子どもが地域の方と触れ合う機会や地域の方が学校に関わっていくことが大切である。
- ・学校が地域にどの様な協力を必要としているかを発信することも大事だ。学校では、学校行事のサポートだけでなく授業協力についても考えたい。
- ・小規模のよさを活かした地域協力は今後、さらに大切になっていくと思う。

◇学校運営の反省と次年度の構想 大山浩司校長

○近況の報告として、本校の伝統行事である凧作りと凧揚げを実施した。教員の凧作りの研修に保護者にも案内を行い2名の参加があった。その保護者の方が、凧作りの時にきた保護者や子ども達にアドバイスをしてくれた。このように輪が広がるので、次年度も案内をしていき、学校と地域が共に協力した行事運営にしていきたい。



○6年生を送る会が行われた。5年生が事前準備からリーダーシップを発揮して取り組んでくれた。5年生にとっては達成感を感じるものとなり6年生にとっては、感動から涙する児童もいてとても良い会となった。この会を通して6年生から5年生に、主体的にまた思いやりや協力の面で児童の育ちのバトンが繋がれていくと感じている。

○学校評価アンケートについて、今年度からめざす子ども像を変えているので質問項目を若干変えている。主体性の育成に関わる質問項目。協調性の育成に関わる質問項目。学校運営全体に関わる質問項目の3つに分けている。また、質問にできるだけ返せるように無記名から記名でのアンケートにしている。

○「楽しく学校生活を送ることができているか」については、保護者が99%、児童が95%と評価してくれている。児童はその日の気持ちで変わることもあると感じている。学校の生活の中では得意でないことや辛いこともある。総合的に学校での生活は楽しいと感じてもらえるよう職員一同で温かい学校、温かい学級づくりに努めていきたい。

○保護者の方には「家庭で読書に親しんでいますか」という質問(36%)、児童には「読書をするのは好きですか」の質問(81%)に変えた。結果からすると、児童は読書が好きなのに家庭では、習い事等でその時間がとれないことが予想される。家庭での読書時間を増やすことより、読書が好きなお子どもを増やすことに力を入れていき、家庭でも可能な限り読書の時間を確保できるよう呼び掛けていきたい。

○望ましい生活リズム(早寝早起き、メディアコントロールなど)については、児童は比較的自己評価が甘く(81%)、保護者の目では低い(62%)。本校でもスマホ等のメディアコントロールについては課題としている。三川町共通の取り組みを本校でも家庭と連携して取り組んでいきたい。

○協調性に関わる質問で「進んであいさつや返事をしていますか」について、児童は高い数字を示している。(91%)しかし、保護者や教員はまだ十分とは言えないと考えている。子どもたちには、あいさつは気持ちが伝わるように、相手が喜ぶようにすることが大事だと話している。

○学校運営に関わる5つの質問においては高い評価を頂いている。特に、主体性や協調性を育む取り組みに関わっては保護者の方にご理解を頂いている数字であった。

○次年度に向けた学校運営の構想について、大きく教育課程を変えるようなことはない。年間の授業日数を207日(今年度)から204日へ3日減らしている。今年度は6時間授業の日を減らすために工夫してきた。次年度は、6時間授業を増やすことなく3日減らす計画ができた。

○週時程の変更として給食後に、月・水・金は昼休みあり、火・木は全校清掃として15分早く下校できるようにしている。ロング昼休みは金曜日のみになるが、児童は早く帰宅できるのであればと納得している。また、スクールバスが3往復している現状から15分早く帰れることで負担軽減となる。

○保護者からの自由記載の意見に、登校班の必要性や学校サポーター活動の種類が少なかった等の意見を頂いた。頂いた声を活かしながら今後の学校運営を行っていきたい。

◇学校運営の反省と次年度の方向性に対する質問と意見 各委員より

- 東郷小学校の子どもたちは立派ですごいと感じている。子どもたちのスマートフォン普及率（三川町全体）を知りたい。下校時は、登校班という感覚が薄れているように見える。町内会に近づくとどうしても班が縦長になって1人で歩いていることもある。クマ出没時などは心配である。
- 町での普及率などの調査はないが、小学生でスマートフォンを持っている家庭も増えてはいるようだ。
- 登校の際は登校班でまとまっているが、下校時にはご指摘のような状況が見られるので学校でも注意している。クマ出没の際や夏の高温時は、校長や教頭が車で下校時の安全確認を行っている。
- 下校時の様子を見守ってくれている地域性に保護者として感謝している。学校の情報発信がSNS化してきている。なかなかすぐに目を通すことができないことも多く、紙のお便りが安心することもある。特に祖父母と一緒に生活している家庭もあり家庭内での情報共有にもつながる。
- 紙ベースだと親に情報が伝わらないという家庭もあり、SNSでの希望もある。今後の検討課題ではあるが、学校としては両面での情報提供することはやぶさかでない。



- 通信簿渡し（年2回）が保護者来校の形となって2年目のようだがそれについてはどのような状況か。
- 家庭訪問や地区懇談会等がなくなり、学校（担任）と家庭の懇談する機会が減少していることから、来校をお願いしている形になっている。子どもの状況や頑張りをお知らせできるよい時間となっている。
- 自分の子どもにはスマートフォンを持たせている。勉強しながら脇に置いて見たり聞いたりしているようだ。あいさつについては、「ただいま」「おかえり」などのあいさつはあるが、「おはよう」のあいさつはあまりない。大人としても、会社では「おはようございます」とあいさつはするが

家ではとくに意識しないことが多い。地域との関わることも年々少なくなりつつある。サポーター活動への参加が少なくなっている。

- 小学校でどのようなサポーターを必要としているのかをお知らせしていただくと地域の協力もしやすくなるのではないか。

◇その他（学校課題や熟議テーマについて）

- 学校規模によって、大規模は大規模のよさがあり、小規模は小規模のよさがある。6年生の夢を見て、4人の子どもが「教師」と書いてくれている。温かい学校・学級づくりに取り組んできたこと、職員と子どもの関係づくりがうまくいっているように感じる。子ども一人ひとりと十分に接する時間がもてていることが小規模校だからよさである。
- 子どもの数が減ってきていることは、地域活動そのものに大きな変化となってきている。
- 子ども一人ひとりの活躍の場はとりやすい。社会性を伸ばす点ではデメリットとなる。
- 道路交通法の改正により、自転車の走行路の確認が必要な個所があると思うので今後の検討が必要となる。家庭でも危機感をもって重要視する必要がある。

◇学校運営の反省と次年度の構想 渡邊 岳 校長

- 第2回学校運営協議会以降の子どもたちの頑張りについてですが、1つ目は、押切スタンダード「あいさつ・返事・あとしまつ」についてよく心がけてくれた。また、自分のことだけでなく友だちを気遣う優しさも育ってきている。2つ目は伝統行事となっている百人一首です。学年の目標を達成する児童が例年以上に多く、名人に合格した児童が47人もいた。
 - 12月には全校バイキング給食で子どもたちが喜んだ。全校でバイキング給食を行うのも押切小だけである。
 - 国際交流授業として、山形大学農学部の学生が来てくれて5、6年生が英語で交流した。児童の度胸の良さに驚かされた。
 - 2分の1成人式では、昨年、ユーチューバーが人気だったが、今年の特徴としては自分のなりたいた様々な職業を掲げる児童が多かった。
 - 3学期は、「自分の目標」と「友達」を大切に生活してきた。3学期に頑張りたいことや次の学年に進むにあたって自分にどんな力が必要なのかを目標としてほしいこと。友だちを大切にするために「ありがとう」と「ごめんなさい」をきちんと伝えることが大切であることを話した。
 - 書初め展をはじめ、校外のコンクールやスポーツ少年団活動でも活躍が目立った。
 - 三川ふるさと学習のまとめに取り組んでいる。三川紹介するパンフレットや防犯標語の幟端をつくり地域に発信することにしている。
 - 学校評価アンケートの結果からは、児童アンケートでは、17項目中16項目で80%を超え子どもたちが頑張っていることがわかる。特に、「授業がよくわかりますか」「先生や友達の話をしっかり聞くことができましたか」の項目が高くなっていて、グループ学習やペア学習の成果がみられる。また、学校の決まりや給食のマナーを守り安全に気をつけて生活ができたと評価している子どもが多く、きまりを意識しながら生活できた。課題になることは、「家でゲームをする時間（30分）をまもっていますか」で、ゲームの時間だけでなく、睡眠時間の確保や起床時間を守ることに一緒に考えて生活リズムを考えていくようにしたい。
-
- 保護者アンケートでは、「自分の考えをしっかりと伝えていますか」と「少し難しい問題にもあきらめずに取り組みましたか」について大きく向上が見られた。「学校に楽しく通っていますか」「友達となかよく過ごしていますか」では95%を超える高評価をいただいた。また、「きまりを守って生活していますか」と「安全に気をつけて生活していますか」の項目は、子どもたちと同じく高評価であった。課題になることが、「家でも読書をしていますか」「ゲームをする時間を守っていますか」「家で進んでお手伝いをしていますか」の項目だった。今後、家庭と連携し改善を図っていききたい。
 - 保護者による記述欄に書かれていたことで、お便り等の写真を鮮明にしてほしいという要望や感染症の発症時に学校メールを使った迅速な対応について今後注意していきたい。子ども同士で名前の呼び捨てについては、「くん」「さん」をつけて呼ぶことを指導し、給食時に、おかわりをしたいために早食いになっていないか等の指摘もあったので指導していく。
 - 次年度の日課表について大きな変化は考えていないが、今年度、火曜日と木曜日に高学年は6時間授業で行っていたものを次年度は火曜日だけ6時間と考えている。習い事等が木曜日に多いことを考えた。昼休みや清掃の時間を削る学校が多くなっているが、本校では「よく学びよく遊ぶ」の観点や縦割り活動を重視しているためからこれまで通りにしている。
 - 校長による学校評価として、「新しいことに挑戦 みんなで知恵を出し合って 本気で取り組む」をテーマに掲げ経営にあたった。「学び＝ワクワク」を重点におき、授業づくりと学力向上に取り組んだ。「授業がよくわかる」と答えた児童が増えたことは大きな成果である。

児童に係る情報共有の時間を大切に、子どもの小さな変化に全職員で共通理解を図り指導にあたった。保護者面談等を活用し、子どもの実態を捉えて生徒指導に活かすことができた。日常生活からペア・グループ学習を推進し、協働的な学びを促すことで、児童の学びを深めることができた。さらに児童の話す・聞く意欲と能力の向上がみられた。不登校傾向にある児童が安心して学校に来ることができるように「ワクワクルーム」を立上げ、長期欠席する児童が減少した。スクリーンタイムや就寝時刻を守ることは課題が残った。家庭とも連携し生活リズムを整えていきたい。学校運営協議会の協力により、地域ボランティア制度の充実が図られた。三川ふるさと学習において、地域の人や自然、文化財等と触れ合う活動を経験することができ、自分たちの生き方を考えることにつながった。日課表の見直しは、児童のゆとり時間を確保するとともに、教職員の教材研究の時間確保と時間外勤務時間の削減につながった。

○次年度は、タブレットが更新され、より主体的に学ぶことに期待がもてる。「学ぶ喜びを実感できる授業づくり」をさらにすすめていきたい。また、自助・共助による危機回避能力を育む防災教育にも力を入れていきたい。

◇学校運営の反省と次年度の構想に対する質問と意見 各委員より



- 学校行事や校外行事等がYouTube配信になると学校の状況や児童の様子が分かりいいと感じる。
 - 名前の呼び捨ては気になっていたので賛成ですが、「さん」へ統一してもよいと思う。
 - 中学校に配置されているスクールカウンセラーの方の活用について、またどのような方なのか。情報提供してもらえるとありがたい。
 - 6時間授業の日が減ることで、年間における授業時間の確保は大丈夫なのか。また、朝学習では何をするのか。
- 次年度の計画では、夏休みと年末年始休業がそれぞれ1日短くなる。朝学習は、国語や算数の基礎基本となる内容の学びを重視する。
- 通学路のグレーチングとなっている箇所は地域の方にとっても危険だし、改善を要望していきたい。また、ALTの配置についても継続して要望していきたい。
 - タブレットの更新の話が合った。家庭でのスクリーンタイムやゲームに関する課題があった。SNSの利用については今どきの子どもは活用能力が早い。その能力を苦手とする年配者へ伝達するような方向を取れないだろうか。
- 今後、年配の地域の方からコマ回しなどを教えていただく活動を考えている。そのお礼に子どもたちが年配の方にタブレットの使い方を紹介する活動などもできそう。教えていただくだけでなく、自分たちも年配の方のためになる活動を仕組んでいきたい。
- 「ワクワクルーム」の設置によって不登校傾向の児童が減ったということはよかった。
 - 「子ども予算」というのはどのような出どころで、どのように活用されるのか。
- 今年度から教育委員会内で教育長にプレゼンして認められたら運用できる予算。
- 国際交流で山形大学農学部の留学生が来校した経緯について。
- 三川町の英語指導員から繋いでもらって今年度始めた。
- 同窓会の積立金の有効活用を考えてもらいたい。
- 学校で自由に使えるお金が少ないので是非活用方法を考えていきたい。

◇その他、学校課題や熟議テーマについて

- 少子化にともない、学校のありかたそのものが問われている。子どもとのつながりが失われないうように、また、地域コミュニティに関わる場が失われないうように検討していかなければならない。時が来てから考えては遅い。今から将来を見通して意見を出し合うようにしたい。